

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2010年3月)
～4四半期連続の前期比プラス～

発表日2010年5月24日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
08	7-9月	▲1.3	▲1.7	▲0.9	▲1.2	▲3.2	▲1.4	▲0.8	▲2.4	▲0.8	▲8.4		
	10-12月	▲2.7	▲5.0	▲1.7	▲3.0	▲11.3	▲14.5	0.6	▲1.1	2.7	▲0.9		
09	1-3月	▲6.3	▲11.1	▲3.1	▲6.6	▲20.0	▲34.6	0.2	▲0.3	▲0.5	▲1.1		
	4-6月	1.1	▲9.3	▲0.6	▲6.1	6.5	▲27.4	▲0.2	▲0.1	▲2.0	0.1		
	7-9月	1.1	▲7.0	0.6	▲4.7	5.3	▲19.4	0.1	0.7	▲6.2	▲6.4		
	10-12月	0.1	▲3.7	▲0.3	▲3.4	5.9	▲4.3	0.0	0.1	▲5.3	▲13.5		
10	1-3月	1.3	3.6	1.1	0.7	7.0	27.5	▲1.5	▲1.6	0.7	▲12.2		
08	10月	0.2	▲2.5	0.0	▲1.6	▲3.4	▲6.6	0.6	▲1.4	1.2	▲1.3		
	11月	▲2.1	▲6.1	▲0.9	▲4.2	▲7.0	▲16.5	0.1	▲0.1	0.3	▲1.5		
	12月	▲2.5	▲6.3	▲1.7	▲3.3	▲8.4	▲20.7	0.1	▲1.8	0.6	0.0		
09	1月	▲1.3	▲9.0	▲0.1	▲4.5	▲8.4	▲30.9	▲0.2	▲1.0	▲0.7	▲1.5		
	2月	▲3.7	▲12.5	▲0.7	▲7.4	▲8.6	▲38.6	0.3	0.8	▲0.1	▲1.1		
	3月	▲1.0	▲11.7	▲3.4	▲7.7	2.2	▲33.8	0.2	▲0.8	▲0.5	▲0.9		
	4月	2.4	▲10.0	2.0	▲6.2	4.5	▲31.0	▲0.6	▲0.9	0.2	0.9		
	5月	0.9	▲10.0	▲0.2	▲7.1	4.6	▲29.0	0.5	1.2	▲1.6	1.0		
	6月	0.3	▲7.9	0.2	▲5.1	1.5	▲22.5	▲0.3	▲0.8	▲2.5	▲1.3		
	7月	0.5	▲8.0	0.5	▲5.3	1.1	▲22.3	0.2	0.6	▲2.5	▲3.5		
	8月	0.0	▲6.3	0.2	▲4.1	1.5	▲18.3	▲0.2	0.4	▲1.5	▲6.5		
	9月	0.1	▲6.7	▲0.3	▲4.7	1.8	▲17.5	0.1	1.3	▲1.9	▲8.8		
	10月	0.2	▲6.1	0.2	▲4.4	1.5	▲14.4	▲0.2	0.5	▲1.0	▲10.5		
	11月	▲0.2	▲3.3	▲0.2	▲3.0	2.6	▲2.9	0.2	▲0.5	▲3.6	▲14.5		
	12月	▲0.3	▲1.6	▲0.7	▲2.7	2.6	6.4	0.2	0.3	▲0.4	▲15.3		
10	1月	3.4	1.9	2.9	▲0.1	4.3	18.9	▲1.3	▲0.3	0.7	▲13.9		
	2月	▲2.3	4.1	▲3.0	0.8	▲0.6	31.3	▲0.9	▲2.1	4.3	▲10.0		
	3月	▲0.8	4.7	▲0.3	1.6	1.2	31.8	0.6	▲2.4	▲3.8	▲12.9		

(出所)経済産業省「全産業活動指数」

○ 全産業活動指数：前月比▲0.8%

3月の全産業活動指数は前月比▲0.8%と、ほぼコンセンサス(同:▲0.7%、レンジ:同▲2.1%～▲0.3%)通りの結果となった。鉱工業生産指数はプラスに寄与した一方、第3次産業活動指数がマイナスに寄与したことなどから、全産業活動指数は2ヶ月連続のマイナスとなった。もっとも、四半期ベースで見れば1-3月期は前期比+1.3%と、4四半期連続でプラスとなっており、均してみれば改善基調が続いているといえよう。

内訳別にみると、プラスに寄与した指数は鉱工業生産指数(前月比寄与度: +0.22%ポイント)、公務等活動指数(同: +0.07%ポイント)、マイナスに寄与した指数は第3次産業活動指数(同: ▲2.03%ポイント)、建設業活動指数(同: ▲0.18%ポイント)であった。

○ 鉱工業生産指数は2ヶ月ぶりに改善

個別にみると、鉱工業生産指数は前月比+1.2%(前月同▲0.6%)と2ヶ月ぶりにプラスとなった。国内の設備投資が緩やかに持ち直しつつあることや、アジア向けを中心とした輸出の回復などによって加工業種を中心に生産は増産基調を維持している。

一方で、第3次産業活動指数は前月比▲3.0%と、前月(同▲0.3%)に続きマイナスとなった。雇用・所得環境が最悪期を脱したことや株価上昇に伴う消費者マインドの改善などを背景に生活関連サービス、娯楽業

などの家計部門の活動は改善したが、需要の低迷などを受けて情報通信業や学術研究、専門・技術サービス業などの企業向けサービス部門の活動が悪化したことから、全体では2ヶ月連続のマイナスとなった。

また、建設業活動指数は前月比▲3.8%(前月同+4.3%)と、3ヶ月ぶりにマイナスとなった。内訳別にみても、公共・建設・土木活動指数が同▲3.4%(前月同+8.7%)、民間・建設・土木活動指数が同▲4.6%(前月同+2.0%)と、共に前月から大幅に悪化している。建設総合統計における冬期修正率改定の影響により1、2月の結果が上振れた反動が出たことや、09年度一次補正予算執行停止の影響による公共投資の減少などが影響していると考えられる。

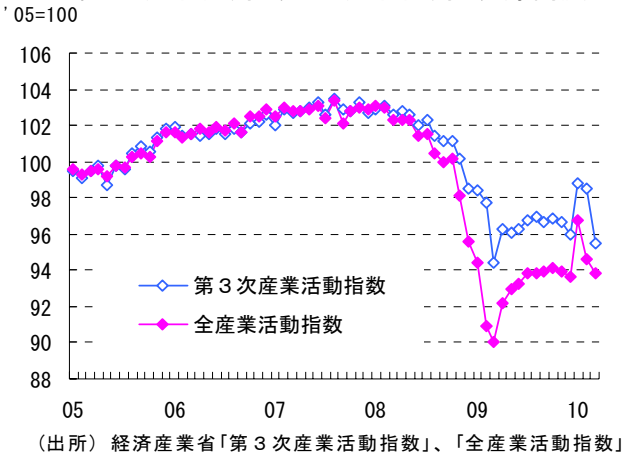
○ 先行きも輸出や生産の増加を通じて、当面、改善傾向が続く見通し

全産業活動指数の先行きを展望すると、第3次産業活動指数は、家計部門はこれまでの政策効果が一巡していくことで減速が見込まれるものの、雇用・所得環境が最悪期を脱したことや、政府の所得支援策による下支え効果などによって緩やかな改善が予想される。また、これまで足踏み状態にあった企業部門も、企業収益や設備投資の持ち直しに伴って今後は緩やかに回復していくと見込まれるため、全体では緩やかな持ち直し傾向が続く見通し。

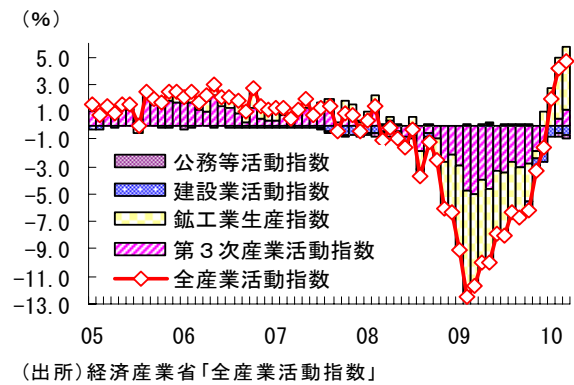
鉱工業生産指数は、アジア向けを中心とした輸出の増加基調が続くことで、引き続き堅調に推移しよう。

以上を踏まえると、全産業活動指数は輸出や生産の増加を通じて、当面、改善傾向が続くと予想される。

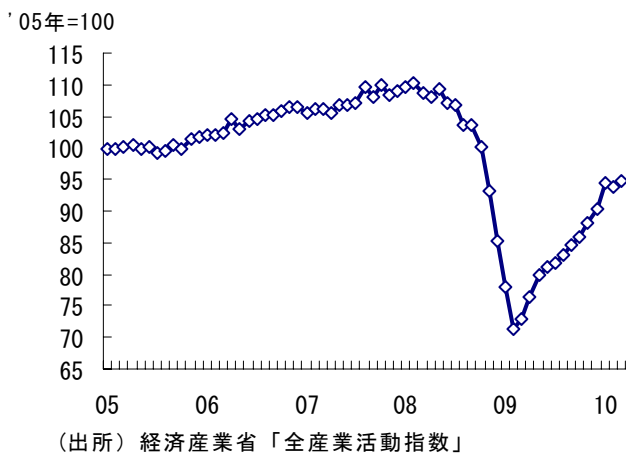
第3次産業活動指数と全産業活動指数(季調値)



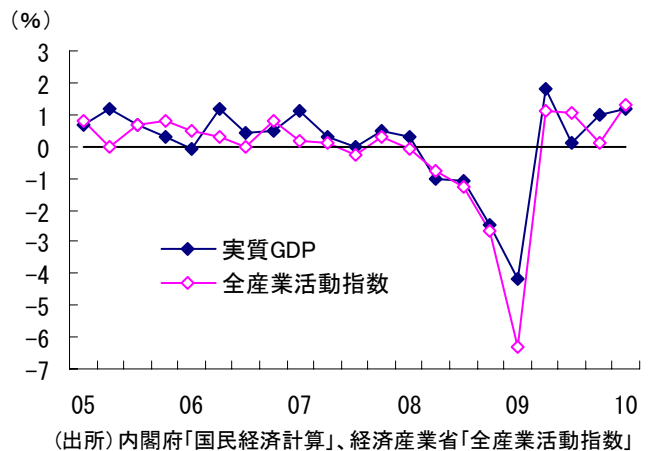
全産業活動指数前年比寄与度分解



鉱工業生産指数(季調値)



実質GDPと全産業活動指数(前期比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。